

銅賞

自分の町を支えるために

横須賀市立神明中学校三年

森 下 音 々

わたしの住んでいる町では、高齢化が進んでいます。そのことを実感したのは、つい最近行われた防災訓練のなかでのことでした。

わたしの通っている中学校では、「地域連携防災デー」という自分の住んでいる地域ごとに分かれて行う防災訓練があります。わたしの住んでいる町は、山の上にある小さな町です。小さな町のため、お店などは少ないですが、地域内での交流はとても深く、顔の知らない人は少ない方だと思います。しかし、私は自分の町について知らないことが多かったようです。

その地域連携防災デーでは、主に自分たちの手で調べ、探して、自分の地域について知るようなことを行います。今年の内容は、地震が起きた設定で、一軒一軒安否確認にまわるというものでした。今回の安否確認では、高齢者の方のみのお宅を訪ねさせてもらいました。高齢者の方々は、突然来た私たちに親切に接してくれました。また、安否確認のうえでも地震への備えがしっかりとされていてすごいなと感じました。しかし、その高齢者の方のなかには、耳の不

自由な方や足腰の悪い方、お子さんが出ていかれて一人身の方などに悩みを抱えている方がほとんどでした。

わたしが最も印象に残っているのは、ある耳の不自由な男性のもとへ安否確認にうかがった時のことです。その男性は、補聴器をつけていました。けれども、インターホンを押した時の音やわたしたちの声があまり聞こえていない様子でした。わたしは、その男性との安否確認を行うために、できる限りの大きな声で話したり、身ぶり手ぶりで伝えようと思いました。それでも声は聞こえなかったようなので、わたしは紙を使って伝えることにしました。

その後、わたしはとても不安になりました。なぜかというと、もし地震が起こったり、火事になったりと、なんらかの災害時に耳の不自由な方は素早く避難できるのか、と。地域内で警報等が出ている時、耳の不自由な方のもとまでその情報はしっかりいきわたるのでしょうか。また、さきほどもあったように、足腰の悪い方や一人身の方は、はたして自分自身の力で無事避難することはできるのでしょうか。

私たちは安否確認を終えて、この地域の中学生同士で集まり、意見をかわし合いました。「みんな親切だった」「災害時の備えがして

ある」などプラスの意見があるなか、なかには心配や不安という意識を持つ人もいたようです。

わたしは、最後に地域の方が話された言葉に心を動かされました。そして、さつきまで抱えていた不安が少しずつ減っていった気がします。その言葉とは、「君たちの知恵と力をかして下さい。」というものでした。

その通りだったのです。災害時に本当に必要とされるのは、大人でも地域の役員の方でもなく、私たち中学生だったのです。中学生は、「どうしよう」とか不安に思ったり心配するだけではいけないのです。それを解決していく力。それを私たちは、自分の町から求められているのです。解決していくためには、今、私たちが持っている知恵、力を最大限にどう活かせるかが大事だと思います。その活かし方は人それぞれ違うと思いますが、災害時にすぐ力を発揮するためには、日頃の地域の方々とのコミュニケーションや交流が大切なのではないのでしょうか。

「もしも」の時に力を発揮できるか、できないかは、日々の生活がそのまま表れます。中学生のもつ知恵と力。私たちにできることは、それを最大限に活かすことです。自分の町を支えるために、地

域との交流やコミュニケーションを増やすことが、わたしは一番重要なことだと思います。